

パンデミックに 世界はどう立ち向かうのか

～国際連携の必然性と可能性～

2021年10月23日(土)13:30～17:00(オンライン開催)



COVID-19

国境を超えて進展するグローバリゼーションにより、瞬く間に世界に広がった新型コロナウイルス。そうであれば、パンデミックの収束(終息)には国境を超える連携が不可欠です。本フォーラムでは、ワクチンや治療薬の共同開発、新たな知見・情報の収集や共有、格差や差別の解消にむけた政治や支援の取組みについて、多様な領域の現状や課題を明らかにし、パンデミックの収束(終息)にむけた国際連携の可能性を考えます。

司会・挨拶：日比谷潤子(日本学術会議第一部幹事)
趣旨説明：和氣純子(日本学術会議第一部会員)

「感染症危機をめぐる国際政治と連携」

詫摩佳代(東京都立大学法学部教授)

「WHOにおける国際連携の最前線」

モイ メンリン(東京大学大学院医学系研究科教授)

「接触アプリに関する新展開と国際連携」

川原圭博(東京大学大学院工学系研究科教授)

「ビッグデータ活用に関する新展開と国際連携」

森 健策(名古屋大学大学院情報学研究科教授)

まとめ・閉会挨拶：望月真弓(日本学術会議副会長)

主催：日本学術会議

共催：パンデミックと社会に関する連絡会議

参加フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>

